

もくもくプロジェクト見学会ブログ

国際文化学科 1年 I.M.

私が今回の見学会を通して感じたのは、生えている木から私たち消費者が手に取る製品や身近にある家などの木材となるまで、本当に多くの方々関わっているということです。そして、関わるすべての人が熱い情熱を持って仕事をされていました。

最初に天竜の山を見学しました。そこでは実際に山を歩いて山を管理する仕事について説明してもらいました。60ヘクタールという広大な土地を一人で管理されていました。また、自分が植えた木は自分の代ではまだ切れる大きさの木には成長しないため、自分の子孫のために植林をしたり、整備をしているとおっしゃっていました。自分のためにはならない、結果が実らないものなのにも関わらず、丁寧に木と向き合う姿勢はより良い木を育てたい、という木に対する熱い思いがあるからだと感じました。



次に丸太市場の見学に行きました。ここでは大きな機械を使って、木を品種や丸太の太さで仕分けを行っていました。そして、24cm以上の丸太を競りにかけるそうです。ここで一番驚いたことは、木は節のある、なしで価値が変わるということです。最近では節ありのものも木らしいとして節を一つのデザインとして使われることができたようですが、昔から節なしの木材が優れているとされています。木を育てる人が枝打ちをしっかりと行っていると節がない木になり、地道な枝打ち作業を怠らなく行えるかが重要になるそうです。



節あり

次に製材所を見学しました。ここでは、機械を使って丸太から木材にするところを実際に見せてもらいました。木材の水分量が異なったものを持つ体験では、水分量

が少ないものほど軽くなっていて驚きました。



最後に渥美さんのお宅に伺い、全員で一日のまとめをしました。渥美さんのお宅は立派な木造建築で木の温かみを感じました。

一日の見学を通して、木の良さ、そして木に携わる多くの人たちが熱い思いを持って日々働いていることに感動しました。木が生えているところや製品や木材となっているところは日常的に目にしますが、丸太から木材にするところは見たことがなかったのでとても興味深かったです。木の良さ、そして木に携わった仕事をしている人たちの熱い思いをできるだけたくさんの人に伝えたいと思いました。